

世界に目を向ける人材に

英語で学ぶ科学 / 国際貢献考える

5月中旬の土曜日、山梨英和高校（甲府市）で「サイエンス・イン・イングリッシュ（英語で学ぶ科学）」の授業があった。

2人の外国人教師が約20人の生徒の前に立つ。カナダ人で同校専任教諭のミュール・クレイグさんと、山梨大学大学院の博士課程に在籍するウクライナ人のクセニャ・フォミチョヴァさん。この日は、仮説を立てて実証するという科学の方法論がテーマだ。

理系の外国人

「What is the first step in scientific method?（科学的方法論で最初にすることは何です

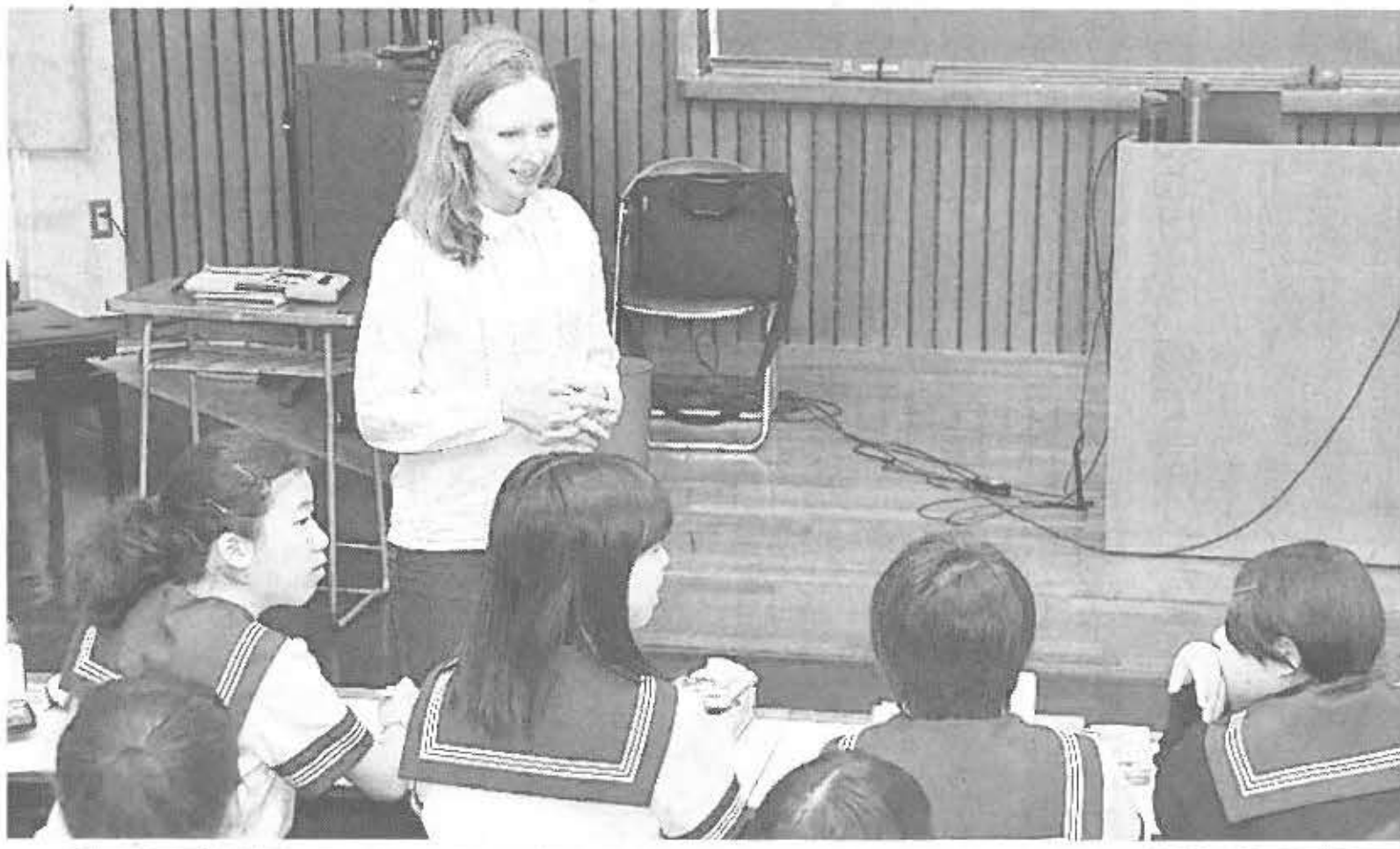
か）」。フォミチョヴァさんの問いに、英語の選択肢から生徒が答える。やり取りはすべて英語だ。

同校は2013年、科学技術分野で国際的に活躍する人材を育てるスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けた。英語教育にも力を入れ、科学を英語で学ぶ授業が隔週で2時限ある。1、2年生が受講し、理系専攻の外国人教師3人が担当する。

2年生の山中楓菜さん（16）は、「知らない英単語も繰り返し使って覚える。科学ではこんな場面でのフレーズを使うのかと徐々にわかっていくことが楽しい」と話す。

1年生は天文や化学、2年生は英語でのプレゼンの仕方などを学ぶ。最初は先生の言葉を聞き取ることで精いっぱいだが、2年生になると、課題研究のポスターを英語で作成するレベルにまで進む。

授業を見守る中安隆信教諭は「科学英語は単語は難しいが、実は文法は簡単でわかりやすい。それを知ってもらいたい」。将来、科学者として英語で世界に打って出るきっかけづくりが目標だ。



サイエンス・イン・イングリッシュの授業

II甲府市愛宕町の山梨英和高校